

諸名玉卷之一目錄

○家三代集撰者秀秋

○六賢秀奇

○三賢秀奇

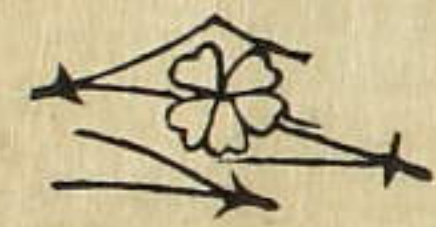
○三賢十首

秀占三首和秋

○石清水法樂和奇

○筑後國高良山十景詩秋

○韻奇 三十六首



後成卿

定家卿

為家卿

後和卿

和補卿

信信卿

基後

為定卿

為重卿

勅点 目野

中院

鳥丸

後柏原院

飛鳥升雅世卿

共十首

定家卿

Handwritten text in a cursive script, likely Mongolian, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is dense and fluid, characteristic of traditional Mongolian calligraphy. The paper shows signs of age and wear, with some staining and discoloration.

Handwritten text in a cursive script, likely Mongolian, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is dense and fluid, characteristic of traditional Mongolian calligraphy. The paper shows signs of age and wear, with some staining and discoloration.

新勅撰集

権中納言の家

Handwritten text in cursive style, likely a list or record of names and titles, including the name 権中納言の家.

Handwritten text in cursive style, continuing the list or record of names and titles.

續後撰集

権大納言の家

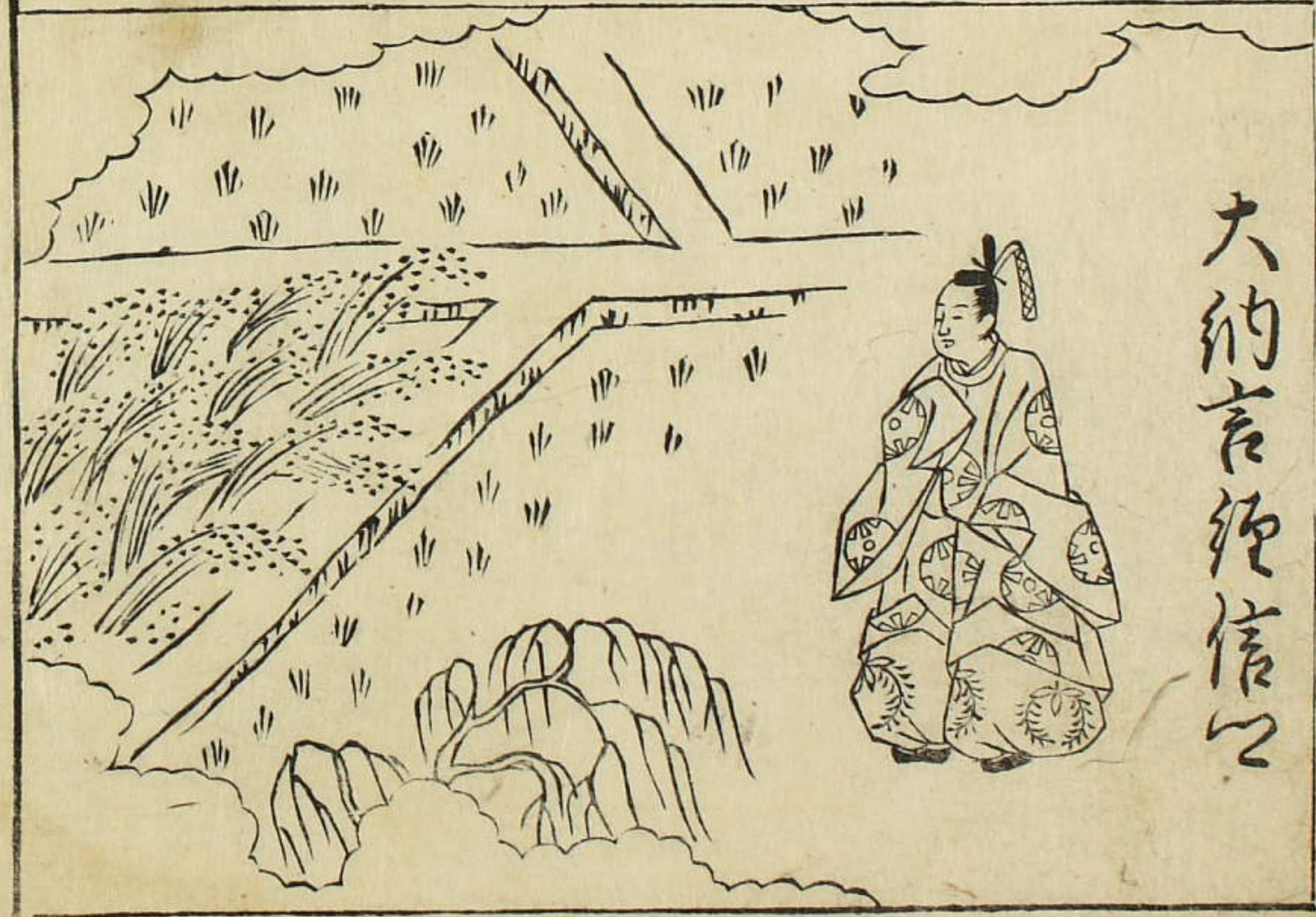
1

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning the left page.

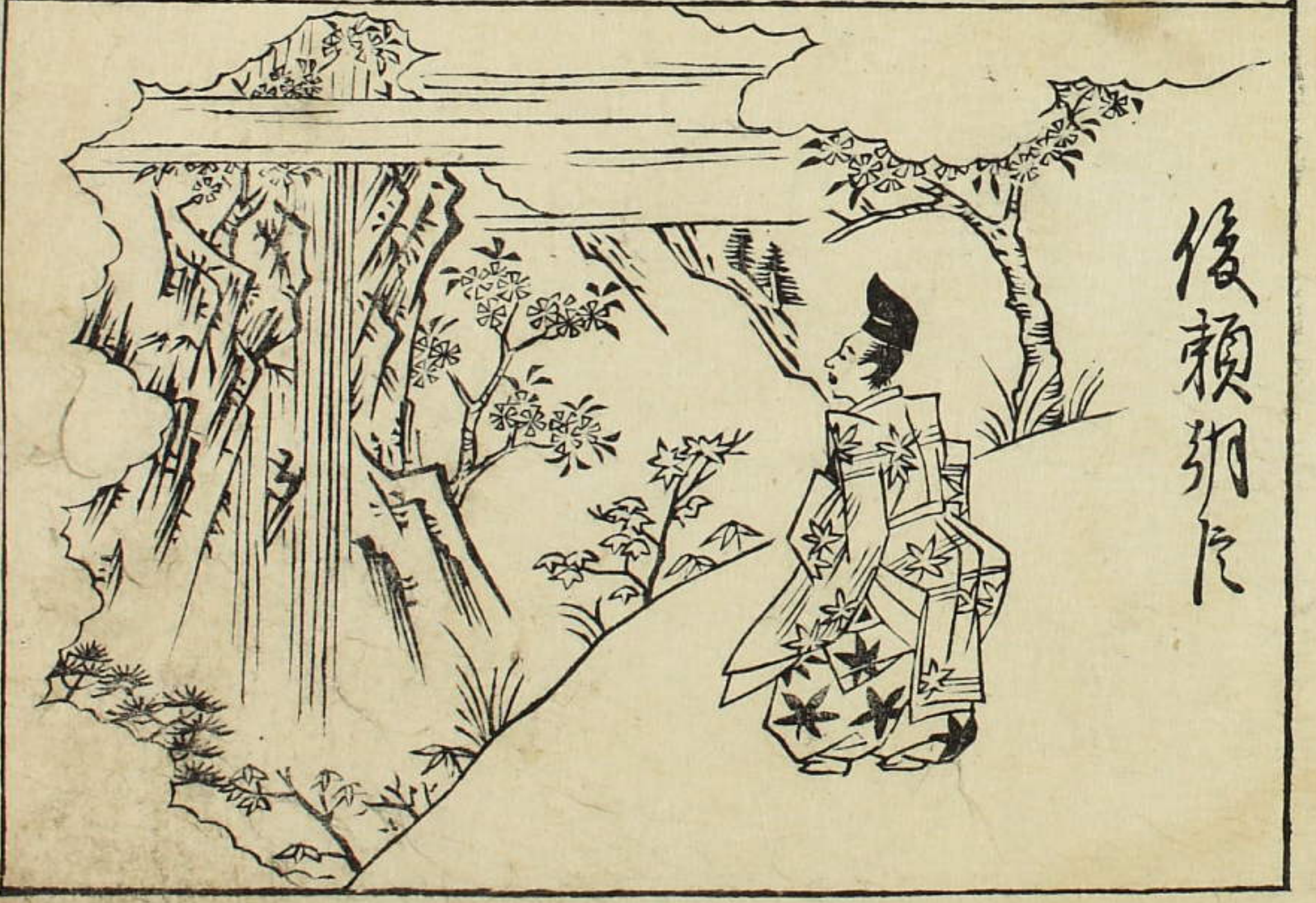
六賢未教

夕されも門田のいふ
 とくはさてあいのまら
 秋風うき
 けいはささうあふ
 糸うとや
 みりすく川のすまん流り
 神は風ふたはまきし
 すみうしおのちえを
 あふ〜波



大納言経信

山さぬく咲う咲より
 むささこはき井よとあふ
 儼乃あ〜いと
 うげうなくまのへ入の
 もぬゆ〜尾花か〜れ
 うらりけれ
 うらりける人ともせれ
 山さぬくよ〜とれ
 いの〜ぬ物



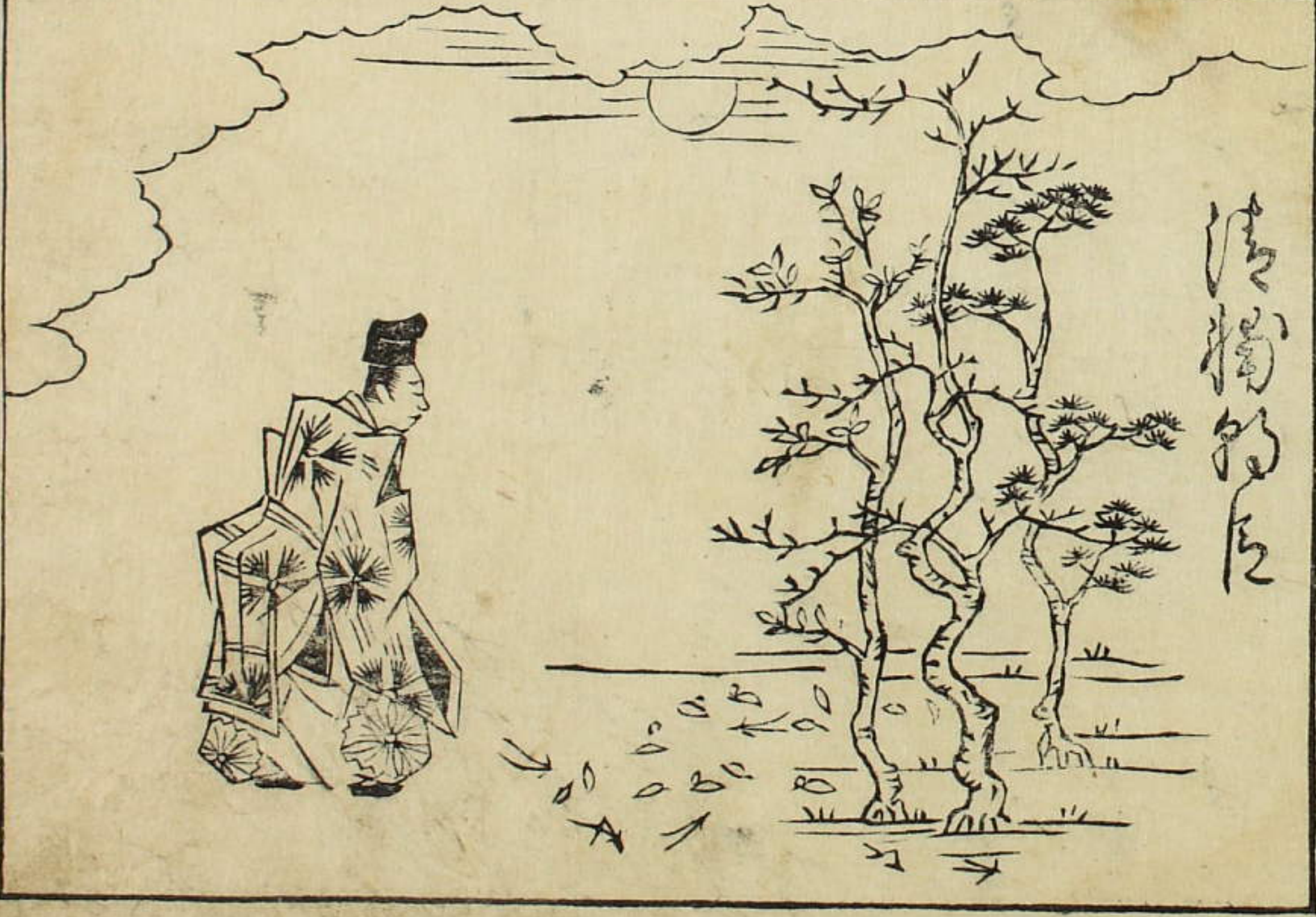
後頼朝

まつりきわたるお山乃
 さくら花を舟のよおは
 らやとさん
 ばいおふかむくきの
 めしおらりの色おらぬ
 うきおわけさ
 ちかあくや
 の風す
 尾らぬ乃
 まつり
 きの
 ぬい



歌補々

あつれのもりお杉葉の
 おおぬうぬおちうら月
 うあ乃さわけさ
 ちかあくや
 ぬい
 まつり
 きの
 ぬい
 ばいおふかむくきの
 めしおらりの色おらぬ
 うきおわけさ
 ちかあくや
 の風す
 尾らぬ乃
 まつり
 きの
 ぬい



清樹の丘

まるむんいさむし時
 さくらつかり花の香ら
 美まふあまかれ
 世のゆよみらさむれ
 おひい入山おひくあも
 雨り晴かり
 おりいさむあちれれ
 うかばいしめあふれ
 申しひさしやい



後成

あもりおり
 月 候の
 か おさ
 らまり あまれ
 こせり
 のり いぬ
 あく
 秋も
 の



基後

夕陽の歌

夕陽の光を照らす
花の影を長く伸ばす
春の風をよめる
鳥の歌をよめる
水の流れをよめる
山の色をよめる

暁初音

暁の光を照らす
花の影を長く伸ばす
春の風をよめる
鳥の歌をよめる
水の流れをよめる
山の色をよめる

夕の月

夕の月を照らす
花の影を長く伸ばす
春の風をよめる
鳥の歌をよめる
水の流れをよめる
山の色をよめる

夕陽の歌

夕陽の光を照らす
花の影を長く伸ばす
春の風をよめる
鳥の歌をよめる
水の流れをよめる
山の色をよめる

夕陽の歌

夕陽の光を照らす
花の影を長く伸ばす
春の風をよめる
鳥の歌をよめる
水の流れをよめる
山の色をよめる

花の いろはに かなは しのぶ
 花の いろはに かなは しのぶ
 花の いろはに かなは しのぶ
 花の いろはに かなは しのぶ

後宿雨

花の いろはに かなは しのぶ
 花の いろはに かなは しのぶ
 花の いろはに かなは しのぶ
 花の いろはに かなは しのぶ

後事

花の いろはに かなは しのぶ
 花の いろはに かなは しのぶ
 花の いろはに かなは しのぶ
 花の いろはに かなは しのぶ

歌三首 和歌 永正二年七月廿六日

女高花恋

後柏原院

花の いろはに かなは しのぶ
 花の いろはに かなは しのぶ
 花の いろはに かなは しのぶ
 花の いろはに かなは しのぶ

秋夕情

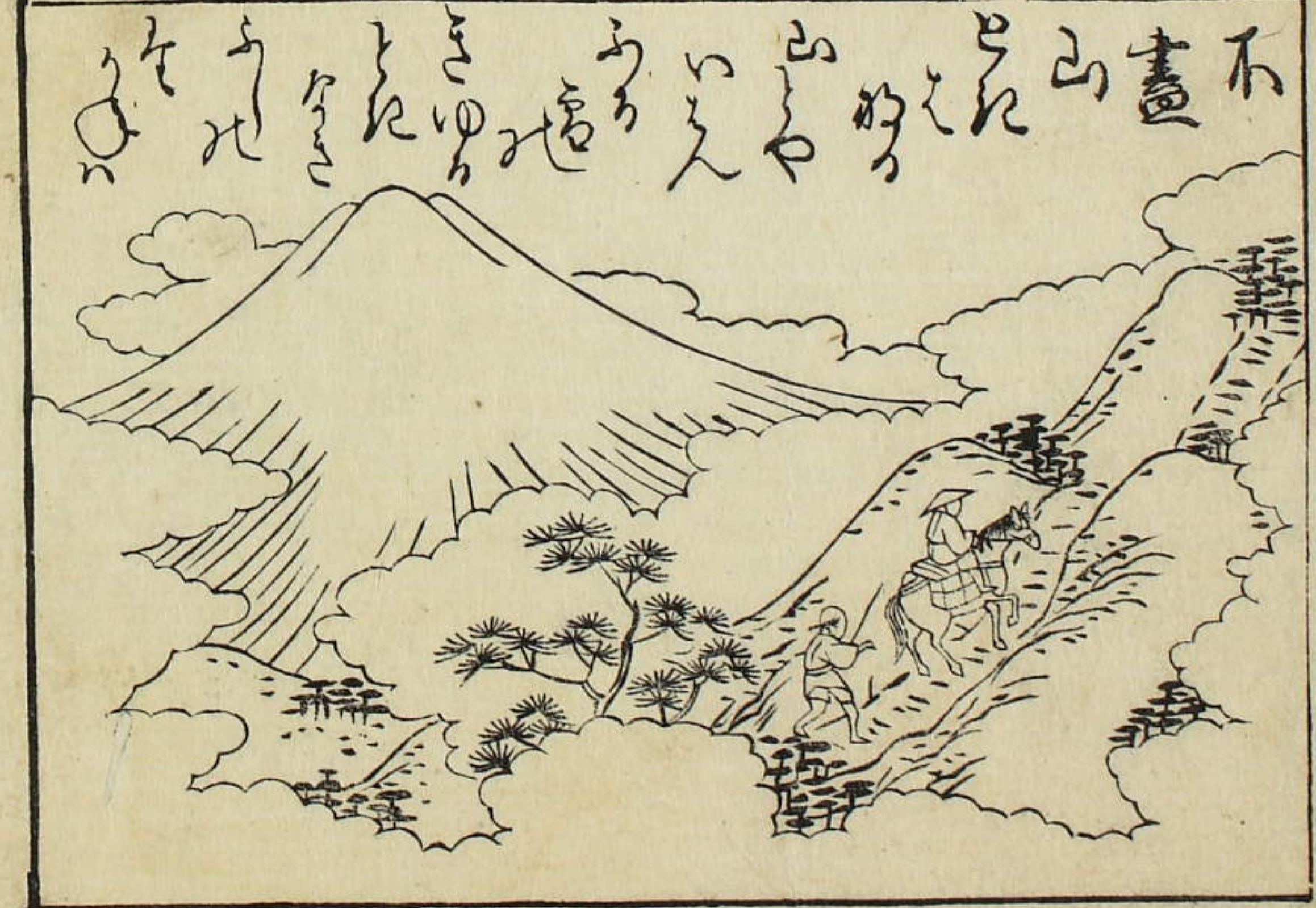
夕

10
源氏物語

11
源氏物語

12
源氏物語

13
源氏物語



筑後國高良山十景詩歌

竹樓春望

妙法院二品法親王
僧堯恕題

竹樓百尺傍青穹萬里山川目力窮
柳色淡濃花遠近一望無處不春風

九太臣 述簡

海山のうきやうののりなみ

吉見満花

實通 轉法輪大納言

一嶽峻嶒徃九天櫻花四發更嬋娟
徑移芳野添春色壓倒秦山玉井蓮

公規 今出川内大氏

あつひんうみみみぬれにさうりりてそとそとふそのとと

御手洗堂

資行 柳原大納言

冬^{タキ}在^{ソノ}昔^{カミ}臨^ノ斯^ノ水^ノ神^ノ迹^ノ流^ノ芳^ノ橋^ノ上^ノ名^ノ御^ノ手^ノ洗^ノ

餘^ヨ滴^ノ凝^ル散^ル凝^ル光^ノ矜^ル照^ル作^ル骨^ノ行^ノ

弘資 日野大納言

あつひんうみみみぬれにさうりりてそとそとふそのとと

朝妻清泉

豊長 高辻中納言

朝^{アサ}妻^ノ風^ノ景^ノ盡^ル新^ノ奇^ノ松^ノ緑^ノ杉^ノ青^ノ伴^ノ四^ノ時^ノ漏^ル出^ル清^ノ

泉林岳下雲蹤雄地總相宜

基福 園大納言

あつひんうみみみぬれにさうりりてそとそとふそのとと

青天秋月

定誠 花山右大將

寺^{テラ}林^ノ青^ノ天^ノ青^ノ嶂^ノ頭^ノ高^ノ低^ノ一^ノ望^ノ點^ノ埃^ノ收^ル啼^ル猿^ノ樹^ノ

上^ノ深^ノ秋^ノ月^ノ特^ノ照^ル行^ル人^ノ万^ノ里^ノ愁^ル

通茂 中院大納言

寺^{テラ}の^ノ志^ノと^ノ月^ノあ^ノも^ノと^ノれ^ノれ^ノ秋^ノ風^ノや^ノあ^ノの^ノり^ノと^ノ記^ノ中^ノふ^ノす^ノ心^ノ

中谷紅葉

季光 柳原侍從

青女深成日夜功 滿山無處不霜楓 疑將濕
布千尋白 變作秋梢一夜紅

資茂 日野中納言

紅とらりり色るるりね竹いそるの中は各乃れ葉を
不濡山霰

宣幸 伏原中納言

朔風吹散不濡山 幾變浮雲頃刻間 應是紫
陽奇絶處 作晴作雨轉清閑

季信 阿部中納言

ふのほろあのもとあをぬ山姫お神をほりあをさるる河

鷲尾素雪

基量 東園宰相

勝處從來名自傳 時添景物更應憐 何人詩
思搖銀 鷲尾峰頭雪後天

光雄 烏丸大納言

後りるる言の日記とうるるのあをていりるるの尾乃

高隆晚鐘

從四位下侍從韶光

樹老 荒烟水清高隆遺跡 昔年名只冷猶
有鐘樓在 招出黃昏兩三聲

時量 平松中納言



山たしくさるにいつふらひもせらうとせしあつする入あひの境

玉璽古松

釋良尚竹内

瑞玉璽傳古廟宮威靈如在至今同光松風

度起神曲盛德遺音膽仰中

雅喬白河三位

ひやうん松やちりぬむの文所くしむじくはり

○韻平

定家

いづりやゆりねりともいふさむりまはらひの春風
 じこけ鹿もさしひさるちふまのあまの事やせらる



